

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 2 年 7 月 8 日現在

機関番号：62608

研究種目：基盤研究(B)（一般）

研究期間：2015～2018

課題番号：15H03186

研究課題名（和文）金剛寺聖教・文書類を基盤とした社寺ネットワークの解明とその蔵書史的研究

研究課題名（英文）Research on the network of shrines and temples and on their collection history based on the books and documents owned by Kongo-ji Temple

研究代表者

海野 圭介（Unno, Keisuke）

国文学研究資料館・研究部・教授

研究者番号：80346155

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 13,900,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、真言宗御室派大本山天野山金剛寺所蔵典籍の悉皆調査によって蓄積された基礎的データに基づき、日本文学、書誌学・文献学、美術史学、国語学、仏教史学等の成果と方法とを包含した共同研究を通して、寺院文化圏とその知的ネットワークの解明を進めた。併せて、金剛寺所蔵の中古・中世の知識のネットワーク形成の解明に寄与する貴重典籍について、翻刻と書影をあげ、その内容と意義について述べた書籍を5冊刊行した。また、仏教典籍の国際共同研究の進展を図り、ハンブルク大学写本学研究所、名古屋大学人類文化遺産テキスト学研究センターとの共同でシンポジウムを開催し、研究成果の周知と今後の課題の共有を行った。

研究成果の学術的意義や社会的意義

従来未公開であった天野山金剛寺所蔵の典籍類を学術資料として活用することを可能にし、金剛寺を中心とした南河内地域の知のネットワーク構造を明らかにしたことは、今後の寺院資料研究をはじめとする日本文学・日本歴史・仏教史、美術史等のさまざまな分野の研究、および地域を対象とした研究や地域の文化活動に大きく寄与するものとなった。

研究成果の概要（英文）：In this research, based on the fundamental data accumulated by the thorough investigation of the books possessed by Amano-san Kongo-ji Temple, we made a point of view of Japanese literature, bibliography, and philology, and advanced the elucidation of the temple cultural sphere and its intellectual network through the joint research which included the accumulation of the results and methods of various neighboring fields such as art history, Japanese language study, and history of Buddhism. And we made researches on the valuable books, which contributed to the formation of networks of knowledge in the Medieval Ages, and published books describing their contents and significance with these facsimiles and transcriptions. In order to advance the international joint research, We also held a joint symposium with the Center for the Study of Manuscript Cultures at the University of Hamburg and Nagoya University to disseminate the research results and share future issues.

研究分野：日本文学

キーワード：蔵書 文庫 聖教 経典 密教

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

(1) 本研究の前提となる研究成果及び直接的研究成果

本研究の前提としては、基盤研究(A)「金剛寺一切経の基礎的研究と新出仏典の研究」(12301001、落合俊典、平成12~15年度)、同「金剛寺一切経の総合的研究と金剛寺聖教の基礎的研究」(15202002、落合俊典、平成16~18年度)及び国際仏教学大学院大学の学術フロンティア・プロジェクト「奈良平安古写経研究拠点の形成」(平成17~21年度)といった、古写経の調査と金剛寺一切経・七寺一切経(愛知県名古屋市)などの日本伝存古写経の資料性の吟味を通して、東アジア仏教典籍の流通と定着に関わる研究があるが、直接的には、基盤研究(B)「真言密教寺院に伝わる典籍の学際的調査・研究—金剛寺本を中心に」(19320037 後藤昭雄 平成19~22年度)同「金剛寺所蔵典籍の集約的調査と研究—聖教の形成と伝播把握を基軸として」(23320054、後藤昭雄、平成23~26年度、以下「前科研」と呼ぶ)を受け、その調査により作成された基礎的データ(前科研までの研究成果としては、金剛寺聖教総体の書目と簡易的な調査データを付した棒目録の完成、及び調査途中で見出された重要典籍類についての簡略な紹介やその翻刻等の概要報告を行った)に基づき発展的な検討と報告を試みるものである。

(2) 金剛寺所蔵の典籍に関する調査と研究の進展と現状

平安時代以前からの伝統を保ち、1000年を超える修学と文化伝承の意義を担う寺院の多岐に渉る収蔵典籍群に関する文献学的検討の遂行とその読解を通じた理解には、幾層にもわたる研究成果の蓄積と再検討および長期にわたる継続的な時間が要求される。金剛寺には、現在までに棒目録に登録した数量に限定しても57函・約10000点という質量共に膨大な典籍が伝来する。醍醐寺や高山寺などにおける100年を超える重厚な調査・研究とその方法の蓄積に学び、本研究に直接に引き継がれる前科研における調査により作成された棒目録データを基盤として、現在ようやく包括的に金剛寺所蔵の典籍の総体を見渡す視角が獲得された。

金剛寺には、国宝『延喜式 卷第十二残卷、第十四/第十六』、同『延喜式神名帳』、平成26年度新指定の重要文化財『遊仙窟残巻』をはじめとする文化財指定を受けた貴重典籍が所蔵されている。従来もこうした貴重典籍の紹介はなされており、その資料性は高い評価を得てきた。ただし、それらは他に類を見ない古写本としての価値に基づく評価であったといえる。本研究では、そうした個々の独立した著述内容の価値の再検討に加え、その典籍が社会的存在としてどのように寺院内外で機能し、どのように知を運び、知の体系を作り上げたのかという視角を提示し検討を進める。即ち、本研究では、前接する研究が明らかにした基盤的データに基づき、聖教の相関関係のうち、寺院に蓄積された典籍類の流通と蓄積に関する蔵書史を描くことを通じて、真言宗寺院の間や東大寺を始めとする南都諸寺院との間、また世俗権力や在地諸層との間に構築された知的ネットワークの解明と、読み継がれ伝領されてゆく歴史的存在、活用される典籍としての、その社会的機能や意義の問いなおしを行う。こうした検討を繰り返すことにより、従来注目されてきた資料群にも新たな視角や評価が与えられるようになる。

2. 研究の目的

本研究は、後村上天皇等の行在所でもあった真言宗御室派大本山天野山金剛寺(大阪府河内長野市)に所蔵される典籍の悉皆調査によって蓄積される基礎的データ類と所蔵典籍個々に関する書誌学的検討とに基づき、金剛寺典籍の歴史を俯瞰する通時的視野の獲得のための蔵書史を描くことを基軸として、広く日本中古・中世の歴史的展開の視角と南河内(高野山、奈良に隣接し、京都との交渉を持つ)という地域的広がりという視角のもとに、寺院文化圏とその知的ネットワークの解明を進めることを目的とする。具体的には、日本文学及び書誌学・文献学の視点を立脚点として、美術史学、国語学、仏教史学などの隣接諸領域の成果と方法の蓄積を包含した共同研究を行うことで、寺院文化圏の存在形態の一端の具現化としての蔵書の流通と蓄積、その伝播を通して見た知的共同体としての寺院ネットワークの解明とその包括的な分析を行う。

3. 研究の方法

本研究の定めた主要なテーマである下記の3点の課題にそって研究を進める。

- (1) 金剛寺所蔵聖教・文書類の蔵書史的記述と寺院文化圏の解明
- (2) 金剛寺所蔵典籍の書誌学的検討と貴重古典籍の特立的研究及び成果報告
- (3) 金剛寺聖教研究を起点とした寺院文化圏と文学的営為の国際共同研究

上記テーマ達成のための文献調査・研究の内実としては、a.奥書・識語類の読解に基づく寺院ネットワークの解明、b.重要聖教類の書誌学的検討と書写年代の検討、c.関連寺院所蔵文献の調査・研究と金剛寺との相関性の検討、d.重点的調査対象典籍の調査・読解という概ね4つの作業・検討領域を設定する。研究推進のための基盤としては、定期的な金剛寺実地調査、共同研究会、各個別文献を中心とする検討・輪読会(年5回を予定)の開催、成果公表とさらなる研究展開を目指す国際会議の開催、研究成果総体の集約と出版を計画した。

4. 研究成果

設定した研究テーマ(上記「3. 研究の方法」に記載の(1)~(3))の順序に従って研究成果を記す。

(1) 金剛寺所蔵聖教・文書類の蔵書史的記述と寺院文化圏の解明

金剛寺に現蔵する典籍類の流通と蓄積に関する蔵書史を描くための素描として、金剛寺とそ

の周辺に位置する真言宗寺院の間の蔵書交流、また、東大寺を始めとする南都諸寺院や世俗権力や在地諸層との間に構築された知的ネットワークについて下記の研究報告を行った。

金剛寺所蔵典籍と寺院交流

海野圭介「天野山金剛寺聖教と周辺寺院」(第1回日本宗教文献調査学会合同研究集会、2017年9月24日、慶應義塾大学)では、初期の金剛聖教には天台宗関係の典籍や浄土教関係の典籍が多いこと、『無名仏教摘句抄』と仮称された典籍の書写者・原円が金剛寺一切経の書写にも関わっており、この時期には一切経の作成と聖教の書写が並行的に行われていること、第9代学頭・忍実(1250-1319)の時代に西大寺律関係の書物が流入していること、第13代学頭・禅恵(1284-1364)の時代に根来寺・醍醐寺・東大寺・高野山・久米田寺・家原寺等との関係で多くの書物が書写されていること、第22代学頭・覚祐(1394-1468)の時代に神道関係の書籍の書写が見え、第28代学頭・朝祐(1488-1565)の時代に立川流の聖教が改めて書写され流入していることなどについて、事例に則して報告を行った。これらの概要は、後藤昭雄監修『天野山金剛寺善本叢刊』(勉誠出版、2017年~2018年)所収の解説や、海野圭介「雑纂される知識の断片—天野山金剛寺学頭乗空房朝祐筆録『合集抄』をめぐって」(前田雅之編『画期としての室町—政事・宗教・古典学』勉誠出版、2018年)に個別に報告を行った。

根来寺・泉州所在寺院との関係

宇都宮啓吾「和泉国家原寺聖教の形成に関する一考察—智積院聖教・金剛寺聖教を手懸かりに—」(『密教学研究』49、2017年)、同「延慶本『平家物語』周辺の書承ネットワーク—智積院聖教を手懸かりとして」(『根来寺と延慶本『平家物語』』(アジア遊学211)、2017年)は、根来寺、家原寺の教学のネットワークと文学生成の問題を扱い、その過程において金剛寺聖教の学的位相や位置について検討を行った。

金剛寺所蔵典籍と学問・知識交流

下記のシンポジウムを企画・進行し、金剛寺所蔵の典籍に認められる学問の形態と知識の流通等の問題について研究報告と討議を行った。

シンポジウム「寺院における学問と唱導—天野山金剛寺聖教を起点として—」(説話文学学会2018年度4月例会における開催)

オーガナイザー：箕浦尚美

パネリスト・発表題目：

仁木夏実「金剛寺蔵『明句肝要』の典拠とその利用」

中川真弓「中世金剛寺僧が書写した摘句集—金剛寺蔵 無名仏教摘句抄 の性格」

箕浦尚美「金剛寺蔵『能生諸仏経釈』に見る平安後期の法華経講説」

ディスカッサント：三木雅博(梅花女子大学)・小林直樹(大阪市立大学)

日時・会場：2018年4月28日、大阪市立大学(杉本キャンパス)

主催：説話文学学会

本シンポジウムでは、金剛寺所蔵典籍に認められる学問形態と知識の流通の問題について、典拠の検討、書写状況の解明、同時代の仏事との比較検討等の方法によって検討を行い、また、金剛寺に伝来した典籍の読み解きが切り開く文学史的意義についても報告と討議を行った。その内容は、仁木夏実「金剛寺蔵『明句肝要』の典拠とその利用」、箕浦尚美「金剛寺蔵『能生諸仏経釈』に見る平安後期の法華経講説—」、中川真弓「天野山金剛寺蔵 無名仏教摘句抄の注記と典拠—中世金剛寺僧が享受した書物—」(いずれも『説話文学研究』54、2019年9月)の各学術論文の形で報告を行った。

(2) 金剛寺所蔵典籍の書誌学的検討と貴重古典籍の特立的研究及び成果報告

金剛寺に所蔵される貴重古典籍の重点的調査とその著述内容についての検討を行い、研究の成果として下記の図書2点5冊を刊行した。

後藤昭雄監修、後藤昭雄・仁木夏実・中川真弓・荒木浩・近本謙介編『天野山金剛寺善本叢刊 第1期 第1巻 漢学、第2巻 因縁・教化』(勉誠出版、2017年)*研究成果公開促進費(日本学術振興会)の助成による刊行。総頁数1360頁。

後藤昭雄監修、中原香苗・米田真理子・箕浦尚美・赤尾栄慶・宇都宮啓吾・海野圭介編『天野山金剛寺善本叢刊 第2期・第3巻 儀礼・音楽、第4巻 要文・経釈、第5巻 重書』(勉誠出版、2018年)*研究成果公開促進費(日本学術振興会)の助成による刊行。総頁数1808頁。

この成果により、金剛寺に所蔵される蔵書の内、特立して資料価値の高い書物の全体像が知られるようになった。その成果には中国の研究機関に所属する研究者も即座に反応し、本書によって全容の報告された資料(上記に所収)を対象とした研究論文が発表されるとともに、本科研究の連携研究者である後藤昭雄に招待講演の依頼があり、下記の報告を行った。

・後藤昭雄「日本に残る中国典籍(特選学術講演)」(中日古典学工作坊(北京大学中文系人文学苑)、2019年11月3日)

(3) 金剛寺聖教研究を起点とした寺院文化圏と文学的営為の国際共同研究

金剛寺聖教を対象の中心に据え、また広く仏教典籍を対象とした国際共同研究を進めた。その研究成果の報告と討議の場として、本科研費研究とハンブルク大学写本文化研究所 (The Centre for the Study of Manuscript Cultures (CSMC))、名古屋大学人類文化遺産テキスト学研究センターとの共同のもと、日本および独国、米国、カナダの研究者の論文を得て、下記のシンポジウムを開催した。

シンポジウムタイトル：Varieties and Patterns of Manuscripts in Medieval Japan

日時：21-22 August 2018

会場：the CSMC in Hamburg, Germany

同シンポジウムにおいては、本科研費研究による調査および研究の成果の一部として、下記の報告と討議を行った。

1. Chikamoto Kensuke, The Manuscriptology of Liturgies and Scripture Readings at Kongô-ji as Seen in the Copying Activities of Monks
2. Araki Hiroshi, To give up one's child? To give up one's own body?: On the Image of Yaśodharā and the Adaption of the *Genji monogatari* in Medieval Buddha Biographies
3. Nakahara Kanae, On Sheet Music in the Archives of Kongô-ji
4. Unno Keisuke, Inscribing Sacred Letters in Manuscripts of Poetry: Kuyô-kyô and its History

また、2020年3月には、台湾師範大学において在台湾研究者とのシンポジウムを企画し、論文の寄稿と翻訳等の準備も十全に行っていたが、COVID-19による全世界的な感染症の流行を受け、研究報告者・参加者の安全を考慮し開催を中止した。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計14件（うち査読付論文 6件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 海野 圭介	4. 巻 61
2. 論文標題 和歌注釈と室町の学問	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 中世文学	6. 最初と最後の頁 6-17
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） https://doi.org/10.24604/chusei.61_6	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 宇都宮 啓吾	4. 巻 65
2. 論文標題 智積院聖教における「東山」関係資料について 智積院蔵『醍醐祖師問書』を手懸かりとして	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 智山学報	6. 最初と最後の頁 453-472
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） https://doi.org/10.18963/chisangakuho.65.0_453	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 久米舞子	4. 巻 -
2. 論文標題 金剛寺聖教にみえる僧仁範の足跡	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 日本古代の地域と交流	6. 最初と最後の頁 97-119
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 宇都宮 啓吾	4. 巻 49
2. 論文標題 和泉国家原寺聖教の形成に関する一考察 智積院聖教・金剛寺聖教を手懸かりに	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 密教学研究	6. 最初と最後の頁 51-73
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 宇都宮 啓吾	4. 巻 211
2. 論文標題 延慶本『平家物語』周辺の書承ネットワーク - 智積院聖教を手懸かりとして	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 根来寺と延慶本『平家物語』（アジア遊学）	6. 最初と最後の頁 49-68
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 箕浦尚美	4. 巻 12
2. 論文標題 菩薩の靈験譚と要文の集成 金剛寺蔵 佚名諸菩薩感応抄 の方法	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 同朋文化	6. 最初と最後の頁 93-111
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 海野圭介	4. 巻 13
2. 論文標題 高野版への眼差し 伝領・書き入れ・古活字版	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 書物学	6. 最初と最後の頁 24-31
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 仁木夏実	4. 巻 54
2. 論文標題 金剛寺蔵『明句肝要』の典拠とその利用	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 説話文学研究	6. 最初と最後の頁 76-83
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 箕浦尚美	4. 巻 54
2. 論文標題 金剛寺蔵『能生諸仏経釈』に見る平安後期の法華経講説	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 説話文学研究	6. 最初と最後の頁 64-75
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中川真弓	4. 巻 54
2. 論文標題 天野山金剛寺蔵 無名仏教摘句抄 の注記と典拠 中世金剛寺僧が享受した書物	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 説話文学研究	6. 最初と最後の頁 83-92
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 近本謙介	4. 巻 208
2. 論文標題 文化史としての翻案と翻訳 西行の和歌と伝承をめぐって	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 ひと・もの・知の往来：シルクロードの文化学 (アジア遊学)	6. 最初と最後の頁 152-167
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 近本謙介	4. 巻 51
2. 論文標題 大般若経と春日若宮信仰 女院と尼僧をめぐる鎌倉仏教史	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 説話文学研究	6. 最初と最後の頁 136-147
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 近本謙介	4. 巻 65-7
2. 論文標題 危機に対峙する文芸の構想と変奏 藤末謙初における往生と汎宗派的志向をめぐって	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 日本文学	6. 最初と最後の頁 2-13
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 海野圭介	4. 巻 -
2. 論文標題 雑纂される知識の断片 天野山金剛寺学頭乗空房朝祐筆録『合集抄』をめぐって	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 画期としての室町 政事・宗教・古典学	6. 最初と最後の頁 267-296
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計12件 (うち招待講演 4件 / うち国際学会 7件)

1. 発表者名 海野圭介
2. 発表標題 天野山金剛寺の聖教と周辺寺院 [シンポジウム 聖教が繋ぐ 中世根来寺の宗教文化圏]
3. 学会等名 日本宗教文献調査学 第1回合同研究集会 (招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Keisuke Unno
2. 発表標題 The Imagination of the Body-Mind Complex in Waka poetry: Waka kanjo, Gorin kujimyō himitsushaku, and secret rituals based on the Yugikyo
3. 学会等名 The 15th EAJS International Conference (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 海野圭介
2. 発表標題 和歌的身体の想像
3. 学会等名 International Symposium "Imaging the World in Pre-Modern Japan" (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 海野圭介
2. 発表標題 和歌注釈と室町の学問
3. 学会等名 中世文学会 (招待講演)
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 Unno Keisuke
2. 発表標題 Inscribing Sacred Letters in Manuscripts of Poetry: Kuyo-kyo and its History
3. 学会等名 Varieties and Patterns of Manuscripts in Medieval Japan (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 後藤昭雄
2. 発表標題 日本に残る中国典籍 (特邀学術講演)
3. 学会等名 中日古典学工作坊 (北京大学中文系人文学苑) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Chikamoto Kensuke
2. 発表標題 The Manuscriptology of Liturgies and Scripture Readings at Kongo-ji as Seen in the Copying Activities of Monks
3. 学会等名 Varieties and Patterns of Manuscripts in Medieval Japan (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Nakahara Kanae
2. 発表標題 On Sheet Music in the Archives of Kongo-ji
3. 学会等名 Varieties and Patterns of Manuscripts in Medieval Japan (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Araki Hiroshi
2. 発表標題 To give up one's child? To give up one's own body?: On the Image of Yasodhara and the Adaption of the Genji monogatari in Medieval Buddha Biographies
3. 学会等名 Varieties and Patterns of Manuscripts in Medieval Japan (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 仁木夏実
2. 発表標題 金剛寺蔵『明句肝要』の典拠とその利用
3. 学会等名 説話文学会 (平成30年度4月例会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 箕浦尚美
2. 発表標題 金剛寺蔵『能生諸仏経釈』に見る平安後期の法華経講説
3. 学会等名 説話文学会（平成30年度4月例会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 中川真弓
2. 発表標題 中世金剛寺僧が書写した摘句集 金剛寺蔵 無名仏教摘句抄 の性格
3. 学会等名 説話文学会（平成30年度4月例会）
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計5件

1. 著者名 後藤昭雄・中原香苗・米田真理子	4. 発行年 2018年
2. 出版社 勉誠出版	5. 総ページ数 656
3. 書名 天野山金剛寺善本叢刊 第2期 第3巻 儀礼・音楽	

1. 著者名 後藤昭雄・箕浦尚美	4. 発行年 2018年
2. 出版社 勉誠出版	5. 総ページ数 660
3. 書名 天野山金剛寺善本叢刊 第2期 第4巻 要文・経釈	

1. 著者名 後藤昭雄・赤尾栄慶・宇都宮啓吾・海野圭介	4. 発行年 2018年
2. 出版社 勉誠出版	5. 総ページ数 426
3. 書名 天野山金剛寺善本叢刊 第2期 第5巻 重書	

1. 著者名 後藤昭雄（監修） 後藤昭雄・仁木夏美・中川真弓編	4. 発行年 2017年
2. 出版社 勉誠出版	5. 総ページ数 758
3. 書名 天野山金剛寺善本叢刊 第1期第1巻 漢学	

1. 著者名 後藤昭雄（監修） 荒木浩・近本謙介編	4. 発行年 2017年
2. 出版社 勉誠出版	5. 総ページ数 558
3. 書名 天野山金剛寺善本叢刊 第1期第2巻 因縁・教化	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	荒木 浩 (Araki Hiroshi) (60193075)	国際日本文化研究センター・研究部・教授 (64302)	
研究分担者	箕浦 尚美 (Minoura Naomi) (70449362)	同朋大学・文学部・准教授 (33911)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分担者	近本 謙介 (Chikamoto Kensuke) (90278870)	名古屋大学・人文学研究科・教授 (13901)	
研究 協力者	中川 真弓 (Nakagawa Mayumi)		
研究 協力者	勢田 道生 (Seta Michio)		
研究 協力者	丹下 暖子 (Tange Atsuko)		
研究 協力者	久米 舞子 (Kume Maiko)		
研究 協力者	有賀 夏紀 (Ariga Natsuki)		
連携 研究者	後藤 昭雄 (Goto Akio) (80022284)	成城大学・文芸学部・元教授 (32630)	
連携 研究者	赤尾 栄慶 (Akao Eikei) (20175764)	独立行政法人国立文化財機構京都国立博物館・学芸部・名誉館員 (84301)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
連携研究者	宇都宮 啓吾 (Utsunomiya Keigo) (40257902)	大阪大谷大学・文学部・教授 (34414)	
連携研究者	落合 俊典 (Ochiai Toshinori) (10123431)	国際仏教学大学院大学・仏教学研究科・教授 (32697)	
連携研究者	中原 香苗 (Nakahara Kanae) (80469270)	神戸学院大学・経営学部・講師 (34509)	
連携研究者	仁木 夏実 (Niki Natsumi) (40367925)	京都府立大学・文学部・准教授 (24302)	
連携研究者	山崎 淳 (Yamazaki Jun) (20467517)	武庫川女子大学短期大学部・日本語文化学科・教授 (44523)	
連携研究者	米田 真理子 (Yoneda Mariko) (00423210)	神戸学院大学・法学部・准教授 (34509)	